
ハルカレ

奈胡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハルカレ

【Nコード】

N1847Q

【作者名】

奈胡

【あらすじ】

姉さん。ぼくは、どうしたらいいんだろう……。――。

——柊 波瑠様。
なごうあき はる

ある昼下がりに。

部活を終えて帰宅した俺のもとには、一通の手紙が届いていた。

——差出人…皆瀬 梨央。
みなせ りお

「知り合い？」隣でちゃっかりポストをのぞく俺の彼女、香織が訊く。

……知ってるものにも。

「姉さん……」

5年前に嫁に行った、俺の姉さん。

正直なことを言えば、差出人なんてものを見なくても おおよその予想はついた。人の名前の末尾に句点を付けるほどのアホは、悪いが俺は姉さん以外に見たことがないのだ。

「お姉さん？ ……ああ！」

思い出したんだろう。香織はおおげさに、拳を手のひらに打ちつけた。

香織とは、3才のとき父親の転勤でここに越して来て知り合った。かれこれ15年の付き合いだ。姉さんが結婚したとき、俺らはまだ13才で、本当の姉のように慕っていた香織は泣きながら見送った。「香織ちゃん、ありがとう。でも大丈夫よ、またすぐに会いに来るわ」

香織はその言葉でやっと泣きやんで、

「約束だからね！」

涙を拭って姉さんの小指を自分の小指に絡ませていた。

それなのに、あいつは一体なにをしているのだろう。姉さんはたったの一度も、ここへ帰って来ていないのだ。

昔っからボーツとした感じの奴だったけど、まさか忘れてるんじゃないだろうなあ……。

「なんかあったのかなあ？」

香織の声に、我に返る。

「さあ？」

「なんだろうね。ま、ゆっくり読みなよ」香織はそう言うと、「じゃあね」と坂を下って行った。

まったく。香織の言う通り、なんだろうね、だ。だいたい今どき手紙なんか送る奴がどこにいるか。

「ただいまあ」

いつも言うだけ言うが、誰もいないことは分かっている。

「なんだ、なんだー？」

俺は部屋に入るなり、ビリビリと派手な音をたてながら封を開けていった。

『波瑠へ。』

明日、そちらへ帰ります。』

『では。』

……以上？

「……って、短かつ！？」拍子抜けした。

まるでレポートでも書くんじゃないかというくらいのとんでもなく大きな紙が幾重にも折り畳まれて入っていると思ったら、一体何なんだ この短さは。

しかも、明日！？ こいつ、この手紙が俺のもとにいつ届くか、本当に解って書いてるのか？ 偶然 今日中に届いたから良かったものの……。

どちらにしろ、こいつはバカだ。マイペースでアホだ……。

結婚しても変わらないなんて、相当重傷な致命傷らしい。

きつとここに帰る約束も、ずっと忘れていたんだろう。あの頭じゃもはや、覚えているほうが奇跡だ。

俺は手紙を片手に、母さんに電話をかけた。

「もしもし、母さん？」

——今日は早く帰ってきた方が良いみたいだよ。明日アホが帰省するから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1847q/>

ハルカレ

2011年1月19日13時25分発行